

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

平成15年度病虫害発生予報第2号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成15年度病虫害発生予報第2号（5月）

【普通作物】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
水稲	いもち病	-	やや少ない
	萎縮病	-	やや少ない
	ツマグロヨコバイ	やや少ない	やや少ない
	縞葉枯病	-	やや多い
	ヒメトビウンカ	少ない	少ない
	イネミスゾウムシ	-	-

【普通作物 - 水稲】

1 いもち病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 前年の穂いもちの発生量は、平年より少なかった。

イ 気象予報では5月の平均気温及び降水量は平年並、日照時間は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 苗いもちが発生した場合は、ビーム水和剤75の500～1,000倍液を1箱当り500ml灌注する。

イ 補植用の置き苗は、葉いもちの伝染源になりやすいので早めに処分する。

2 萎縮病（ツマグロヨコバイ）

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア エライザ法による検定の結果、イネ萎縮ウイルス保毒虫率は平均0%（平年：0.8%、前年：0.1%）であった（第1、2表参照）。

イ 4月5半旬調査の結果、ツマグロヨコバイの越冬後の発生量は平年よりやや少なく、前年並であった。

(3) 防除上注意すべき事項

萎縮病の常習発生地を除き、防除の必要はない。

第1表 ツマグロヨコバイのイネ萎縮ウイルス保毒虫率¹⁾

採集場所	検定虫数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率(%)		
			本年	前年	前々年
前原市末永	188	0	0	0	- ²⁾
宗像市河東	38	0	0	0	-
久留米市太郎原	188	0	0	0	-
田主丸町益生田	188	0	0	0	0
山川町北関	188	0	0	0.5	0
黒木町木屋	92	0	0	0	0
筑後市馬間田	101	0	0	-	-
岡垣町黒山	188	0	0	0	-
行橋市長井	188	0	0	0	0

¹⁾ 本年、前年はエライザ法、前々年は幼苗接種法による検定

²⁾ 「-」は実施せず

第2表 ツマグロヨコバイのイネ萎縮ウイルス保毒虫率の年次変動

年次	検定地点数	保毒虫確認 地点数	検定総虫数 (頭)	保毒虫率 (%)
1993	17	8	3,289	1.26
1994	7	4	1,186	3.54
1995	11	3	1,863	1.93
1996	7	1	1,317	0.08
1997	7	2	989	0.40
1998	8	2	972	0.50
1999	9	1	1,179	0.08
2000	10	0	1,252	0
2001	10	0	1,471	0
2002	10	2	1,828	0.11
本年	9	0	1,359	0
平年				0.79

本年、前年はエライザ法、2001年までは幼苗接種法による検定

3 縞葉枯病（ヒメトビウンカ）

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア エライザ法による検定の結果、イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は平均4.6%（平年：0.4%、前年：1.2%）であった（第3、4表参照）。

イ 4月5半旬調査の結果、ヒメトビウンカの越冬後の発生量は平年より少なく、前年よりやや少なかった。

(3) 防除上注意すべき事項

本田侵入後の感染防止対策としては、育苗箱施薬が有効である。

第3表 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率¹⁾

採集場所	検定虫数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率(%)		
			本年	前年	前々年
宗像市河東	40	2	5.0	0	0
久留米市太郎原	258	14	5.4	1.9	- ²⁾
田主丸町益生田	232	6	2.6	2.6	0
山川町北関	188	17	9.0	2.4	3.2
黒木町木屋	112	9	8.0	0	0.6
岡垣町黒山	112	1	0.9	1.6	0.5
行橋市長井	236	5	2.1	0	-

¹⁾ 本年、前年はエライザ法、前々年はラテックス凝集反応法による検定

²⁾ 「-」は実施せず

第4表 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の年次変動

年次	検定地点数	保毒虫確認 地点数	検定総虫数 (頭)	保毒虫率 (%)
1993	13	4	2,588	0.35
1994	7	1	1,300	0.08
1995	11	4	2,196	0.32
1996	9	2	1,750	0.29
1997	10	1	1,582	0.06
1998	9	5	1,568	0.57
1999	7	1	777	0.41
2000	8	3	873	0.45
2001	8	3	769	0.65
2002	12	6	1,087	1.20
本年	7	7	1,178	4.58
平年				0.44

本年、前年はエライザ法、2001年まではラテックス凝集反応法による検定

4 イネミズゾウムシ

(1) 予報の内容

発生時期：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 県下5か所に設置している予察灯では、4月30日現在飛来を確認していない(筑紫野市予察灯の初飛来日、平年：5月5日、前年：4月29日)。

イ 気象予報では5月の平均気温及び降水量は平年並、日照時間は平年並が多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

間断灌水や浅水管理を実施し、成虫の定着を抑制するとともに被害の回避を図る。

【果 樹】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
カンキツ	そうか病 ミカンハダニ アブラムシ類	やや少ない 並 並	やや少ない 並 並
ナシ	黒星病 アブラムシ類	並 並	並 並
ブドウ	黒とう病	やや少ない	並
カキ	炭疽病 うどんこ病 フジコナカイガラムシ	- - 多い	並 並 多い
ウメ、ビワ、モモ、スモモ、ナシ、柑、カンキツ等	カメムシ類	やや少ない	やや少ない

【果 樹】

1 カンキツのそうか病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬の調査の結果、新葉の発病葉率は平均0.04%（平年：0.4%、前年：0.05%）であった。

イ 5月の気象予報では気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 落花直後の防除を徹底する。

イ 罹病葉は伝染源になるので除去する。

ウ 防除薬剤は「平成15年度果樹病虫害防除基準」を参照する（以下の病虫害についても同様）。

2 カンキツのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬の調査の結果、寄生葉率は平均5.1%（平年：6.7%、前年：8.5%）、発生ほ場率は57.9%（平年：30.4%、前年：40.0%）であった。

イ 5月の気象予報では気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除に当たっては、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

イ 防除にあたっては同一系統薬剤の連続使用を避ける。

3 ナシの黒星病

(1) 予報の内容

発生量：平年並で、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬の調査の結果、発病葉率は平均0.2%（平年：0.1%、前年：0.3%）であった。

イ 5月の気象予報では気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性の低下を避けるため、EBI剤の連続散布を控え、他の系統の薬剤とのローテーション散布を行う。

4 ナシのアブラムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬の調査の結果、寄生新梢率は平均2.7%（平年：1.6%、前年：1.4%）であった。

イ 5月の気象予報では気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ワタアブラムシについては、散布薬剤の効果低下が認められた場合は、他系統の薬剤に切り替える。

5 ブドウの黒とう病

(1) 予報の内容

発生量：平年並で、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬の調査の結果、発病は認められなかった（平年：0.9%、前年：3.7%）。

イ 5月の気象予報では気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

罹病葉、罹病新梢は摘除し二次伝染を防ぐ。

6 カキのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬の調査の結果、寄生枝率は平均11.9%（平年：4.0%、前年3.5%）、発生ほ場率は平均73.3%（平年：47.4%、前年76.5%）であった。

イ 5月の気象予報では気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 現在越冬場所から移動中である。発生量が非常に多いので、開花前に防除を徹底する。

イ 本虫は、薬液がかかり難い場所に多く寄生しているため、散布むらのないように丁寧に防除する。

ウ 開花前の防除はミツバチに影響が少ない薬剤を散布する。

7 ウメ、ビワ、スモモ、モモ、ナシ、カキ、カンキツ等のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 越冬量は平均 0.3 頭 (平年 : 1.0 頭、前年 : 4.6 頭) であった。

イ 県農業総合試験場内の予察灯では、4 月 5 半旬迄の総誘殺数はチャバネアオカメムシの誘殺数が 1 頭 (平年 : 14 頭、前年 : 123 頭)、ツヤアオカメムシの誘殺数が 1 頭 (平年 : 21 頭、前年 : 199 頭) であった。

ウ 5 月の気象予報では気温及び降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

発生が少ないのでなるべく他の病害虫との同時防除を行なう。

【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
茶	カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	やや少ない 並 並	やや少ない 並 並

【茶】

- 1 カンザワハダニ
 - (1) 予報の内容
発生量 : 平年よりやや少なく、前年よりやや多い
 - (2) 予報の根拠
 - ア 4月4半旬調査の結果、寄生葉率は平均1.2%(平年:3.5%、前年:0.2%)で、50葉当たり寄生虫数は平均3.3頭(平年:8.9頭、前年:0.1頭)であった。
 - イ 気象予報では、5月の平均気温は平年並、降水量は平年並と予想されている。
 - (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 発生状況をよく観察し、寄生葉率が2%以上である場合は一番茶摘採後に防除を行う。
 - イ 防除薬剤は「平成15年度茶・いぐさ病虫害防除基準」を参照し、本種の薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連用を避け、複数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

- 2 チャノミドリヒメヨコバイ
 - (1) 予報の内容
発生量 : 平年・前年並
 - (2) 予報の根拠
 - ア 4月4半旬のたたき落とし法による調査では、平均0.04頭(平年:0.03頭、前年:0頭)の発生であった。
 - イ 気象予報では、5月の平均気温は平年並、降水量は平年並と予想されている。
 - (3) 防除上注意すべき事項
発生の見られない茶園もあるので、発生状況をよく観察し、たたき落とし法(A4版白紙上)で4頭以上発生している場合は一番茶摘採後に防除を行う。

- 3 チャノキイロアザミウマ
 - (1) 予報の内容
発生量 : 平年・前年並
 - (2) 予報の根拠
 - ア 4月4半旬のたたき落とし法による調査では、平均0.5頭(平年:0.3頭、前年:0.2頭)の発生であった。
 - イ 気象予報では、5月の平均気温は平年並、降水量は平年並と予想されている。
 - (3) 防除上注意すべき事項
発生状況をよく観察し、たたき落とし法(A4版白紙上)で10頭以上発生している場合は一番茶摘採後に防除を行う。

【野 菜】

作物名	病虫害名	発生現況 (平 年)	発生予想 (平 年)
アスパラガス	斑点病 ハダニ類 アブラムシ類 アザミウマ類 ヨトウ・タバコガ類	並 少ない 少ない 少ない 並	並 少ない 少ない 少ない 並

1 アスパラガスのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、寄生株率は平均0%（平年：1.0%、前年：1.9%）であった。

イ 気象予報では、5月の平均気温、降水量とも平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難になるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

イ 各種薬剤に対する本害虫の感受性を低下させないために、同一系の薬剤の使用を避け、複数系統の薬剤を組み込んだ口・テ・ション散布を行う。

2 アスパラガスのアブラムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、寄生株率は平均0%（前年：6.9%、前年：3.1%）であった。

イ 気象予報では、5月の平均気温、降水量とも平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難になるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

イ 各種薬剤に対する本害虫の感受性を低下させないために、同一系の薬剤の使用を避け、複数系統の薬剤を組み込んだ口・テ・ション散布を行う。

5月の気象予報（1か月）

（予報期間 4月26日～5月25日）

2003年4月25日
福岡管区气象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並が多い可能性が大きいでしょう。

九州北部地方では、天気は周期的に変わりますが、平年に比べて晴れる日が多いでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	20	50	30
降水量	20	50	30
日照時間	20	40	40

- < 1週目の予報 > 4月26日～5月25日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 4月26日～5月2日
この期間の平均気温は、平年並か低い可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 5月3日～5月16日
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
18.4	141.8	188.8	17.1	18.0	19.1

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス
電子メールアドレス

www.jpnpn.ne.jp/fukuoka.
kfok0301@sp.jpnpn.ne.jp